

国語科学習指導案

5年3組 36名 指導者

上原孝夫

本授業では、以下の検証を行うものである。

協同的な「学び合い」のなかで「思考スキル」を活用し、読みの視点をもって文学作品を読み深めたり、他の作品へと読み広げたりすることは、ものの見方や考え方を豊かにし、読書の楽しさを味わわせる手立てとして有効であったか。

1 単元 すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう「大造じいさんとガン」

2 目 標

リテラチャー・サークルを通して、友達と関わり合いながら読みを深めたり、物語の優れた叙述に着目して自分の考えをまとめたりしながら、物語の魅力を伝えることができるようにする。

3 単元の評価規準

- 椋鳩十作品を進んで読もうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- 登場人物の相互関係に基付いた行動や会話、情景などの描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめている。【読む能力】
- 友達と関わり合いながら読み、自分の考えを広げたり深めたりしている。【読む能力】
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。【言語についての知識・理解・技能】

4 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、鹿児島ゆかりの動物児童文学作家、椋鳩十氏の代表作「大造じいさんとガン」を中核教材として扱う。椋鳩十作品は、鹿児島を舞台とした優れた動物児童文学が多く、子どもにとって親しみやすい作品である。特に、教材「大造じいさんとガン」は、ガンの頭領「残雪」と狩人「大造じいさん」との間に繰り広げられる生存のための厳しい闘争を通じて、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かしている大造じいさんの人間味あふれる姿が、生き生きと描かれている。場面の転換や物語の山場の部分などに細かい描写が見られ、秋の空や日の光を中心とした自然描写、さらに、戦う残雪の行動描写が巧みに用いられており、情景描写から登場人物の相互関係や心情を捉え、自分なりの考えをまとめることができるようになっている。

本単元では、より多くの椋鳩十氏の優れた叙述などを読み味わわせ、読書の楽しさやシリーズを読み味わう楽しさなどを経験させるために、並行読書やリテラチャー・サークルなどの読書活動を通して、子どもの主体的な読書活動につなげていきたい。導入では、「大造じいさんとガン」だけでなく、教師が推薦する作品を読ませたり、作品の「紹介カード」を見せたりすることで、並行読書への意欲付けを図るとともに、活動へのイメージをもたせたい。展開では、優れた叙述や友達と関わり合いながら自分の考えを深めたり、まとめたりすることができるようにするために、リテラチャー・サークルによる読む活動を行わせたい。リテラチャー・サークルでは、目的に応じて様々な話題を設定し、作品を読ませていく。その際、どのような叙述を根拠にしているかを明確にするために、「見える図(クラゲチャート)」を活用しながら読み進めさせたい。終末では、学んだことを生かして複数の椋鳩十作品を読み、お気に入りの物語の魅力を作品「紹介カード」にまとめることで、関連付けたり評価したりする「思考スキル」を高めていきたい。また、個人の読みを深めさせたり、友達と文学について語り合うことの楽しさを味わわせたりして、今後の読書生活をより主体的に取り組みせるようにしたい。

ここでの学習は、3学期単元「特色をとらえながら読み、物語をめぐって話し合おう」、教材「わらぐつの中の神様」での、「構成」「人物像」「表現」に表れる物語の特色を捉える学習につながっていく。

(2) 子どもの実態と指導

本学級の子どもは、これまで、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら物語を読んだり、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化を、叙述を基に想像して読んだりする経験してきた。また、登場人物同士の関わりを捉え、自分と比べて感想をまとめる経験もしてきた。一方で、登場人物の相互関係や心情の変化が、情景などに投影・暗示的に表現されているような文章を読んだ経験は少ない。そこで本単元では、これまでの学習経験を生かすとともに、特に情景描写に着目して優れた叙述を根拠としながら、作品の魅力を伝え合うことができるようにしたい。その

際、ものの見方や考え方を広げるために、根拠となる叙述を明確に捉えることのできる「見える図」(クラゲチャート)を活用させたり、友達と関わり合いながら自分の考えを深めるために、一つ的话题に沿って語り合うことのできるリテラチャー・サークルを行わせたりしたい。

また、子どもの大半は、物語を読むことに関する興味・関心が高く、これまでも同一作者による作品を多読している一方で、読書を通して感じたり考えたりしたことを自分の言葉で書くことを苦手としている。ここでの学習では、椋鳩十作品を一気に読み広げられるよう読書コーナーを充実させ、ブックリストに沿いながら、読書の楽しさを十分に味わわせていきたい。また、自分の考えを深め、根拠をもって自分の考えを表現できるように、どのように記述すればよいか適切なモデルを示しながら、「紹介カード」の書き方を指導していきたい。

5 指導計画 (総時数8時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1 教材文「大造じいさんとガン」の初発の感想を交流したり、教師が紹介する椋鳩十作品の紹介例を聞いたりする。	1
	2 学習課題を設定し、学習計画を協議する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">すぐれた表現に着目して椋鳩十作品を読み、「紹介カード」でみりよくを伝えよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【関：椋鳩十作品を進んで並行読書しようとしている。】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分が選んだ作品を紹介するためには、どのように読んでいけばよいのか見通しをもたせるとともに、ブックリストを配布し、椋鳩十作品の並行読書を行わせ、物語の魅力について考えさせておく。</div>	1
情報を読み取る	3 教材文「大造じいさんとガン」の作品全体を捉え、物語の重要な要素を確認するために、リテラチャー・サークルを行う。	2
	4 教材文「大造じいさんとガン」の中心人物の心情の変化を捉え、物語の重要な要素を確認するために、リテラチャー・サークルを行う。 5 教材文「大造じいさんとガン」の情景描写に着目し、この物語についての感じ方を表現するために、リテラチャー・サークルを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【読：登場人物の相互関係に基付いた行動や会話、情景などの描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめている。】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【読：友達と関わり合いながら読み、自分の考えを広げたり深めたりしている。】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【言：語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">リテラチャー・サークルを行う際には、事前に自分の考えをもたせたり、根拠をもって語り合うことができるように「見える図」を活用させたりする。また、必ず活動後に自分の考えをまとめさせるようにする。</div>	1 1 (本時)
主体的に表現する	6 椋鳩十ブックリストから、自分の読みたい作品を選び、「紹介カード」に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">評価語彙集やモデル文を手本にさせながら、選んだ物語の魅力を多面的に評価しながら「紹介カード」を書かせるようにする。</div>	1
	7 「紹介カード」を基に、互いに感じた物語の魅力を紹介し、感想を交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【読：自分の考えを基に、友達と関わり合いながら読み、自己の考えを広げたり深めたりしている。】</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【関：考えを進んで交流し、読書の幅を広げようとしている。】</div>	1

6 本 時 (6/8)

(1) 目 標

「大造じいさん」の「残雪」に対する心情を表現した情景描写を、リテラチャー・サークルを通して読み味わい、印象に残った表現を見付けることができるようにする。

(2) 評価規準

「大造じいさん」の「残雪」に対する心情を、季節、音、花、天気などの情景描写に着目して読んでいる。 【読む能力】

(3) 指導に当たって

まず「つかむ・見通す」過程では、学習計画表や紙板書等でこれまでの学習の経過や進め方を想起させ、本時の学習に見通しをもたせる。次に「調べる」過程では、「見える図」を用いて情景描写の叙述を集める中で、「大造じいさん」の「残雪」に対する心情に迫らせていく。また、協同的な「学び合い」の場を設定することで、自分の読みを広げたり深めたりできるようにする。

最後に「まとめる・生かす」過程では、印象に残った情景描写とその人物の心情を短い文章で簡潔にまとめさせていく。

(4) 本時の展開 重点化するスキル [] 子どもの意識 ○指導の手立て ※評価

過程	時間	主な学習活動と指導の手立て	
つかむ・見通す	7	1 前時までの学習を振り返る。 [・ 三つの作戦の前と後では、「ガン」に対する心情が変わっていった。「大造じいさん」の行動から想像できたね。] 2 本時のめあてを確認する。 [物語のみりよくに迫るためには、どのような読み方をすればよいのだろう。] 3 教師の補説を聞き、学習の進め方に見通しをもつ。 [・ 「大造じいさん」の心情は、情景描写と関連付けて読むことができそうだ。]	○ これまでの学習経過を計画表や紙板書に残しておくことで、前時までの学習を振り返りやすくし、また、本時の学習に見通しをもって臨めるようにする。 ○ 一人一人が書いた初発の感想を紹介し、これまでの学習の成果を称賛しながら、同じ本を読んでも、感じ方が違うという面白さに気付かせていく。
調べる	33	4 「大造じいさん」の心情を、情景描写している表現について考える。 [話題：一番印象に残る「情景」をえがいた表現はどの部分だろう。] (1) 各自で読み取ったことを基に、自分なりの考えをメモする。 【一人で：5分】 [・ 4の場面の「晴れた春の朝」は、人物の晴れ晴れした気持ちがよく表れているよ。 ・ 関連のある叙述をつなげていくと、読みが深まり、自分なりの考えがもてるぞ。] (2) メモを基にそれぞれの考えを交流する。 【グループで：7分】 (3) グループで話し合ったことを発表し、印象に残った情景描写について語り合う。 [関連付ける] 【みんなで：10分】 5 ディスカッションを通して、深まった自分の考えを、百字程度に整えて書く。 【一人で：5分】 [一番印象に残る「情景」をえがいた表現は、「晴れた朝」や「らんまんとさいた」の部分です。この表現は、「いつまでも、いつまでも」とつながっていて、大造じいさんの晴れ晴れとした気持ちや満足感がはっきりと伝わってきます。]	○ リテラチャー・サークル(話題型)の形態を取り入れ、一人一人の印象に残る情景描写を、登場人物の心情と関連付けさせながら、より効果的な交流を図っていく。 ※ 「大造じいさん」の「残雪」に対する心情を、季節、音、花、天気などの情景描写に関連付けて読み、自分の深まった考えを文章に表している。 (ワークシートの記述の観察・分析) ○ 自分の考えをまとめられている子どもには、考えの根拠や、基になる叙述についても書かせるようにする。 ○ 自分の考えをまとめられていない子どもには、モデル文例を与え、参考にさせる。
まとめる・生かす	5	6 本時の学習の振り返りを書く。 [○ 物語のみりよくは、「情景」をえがいた表現をとらえ、登場人物の心情と関連付けながら読めばよい。 ○ 友達と交流することで、考えを広げたり深めたりすることができる。] [・ お互いの読みを交流するって楽しいな。 ・ 読書を通して、自分の考えが深まるという感覚がつかめたぞ。 ・ 読書って、とてもためになるね。 ・ 他の椋鳩十作品も、もっと読みたい。] 7 次時の学習を確認する。 [・ 物語の魅力を「紹介カード」に書いてみよう。楽しみだな。]	○ 自分の考えを発表し、交流し合うことで、一人一人の感じ方について違いがあることに気付いたり、互いの読みのよさを認めたりすることができるようにする。 ○ 次時では、完成した『大造じいさんとガン』紹介カードを参考に、他の椋鳩十作品の「紹介カード」を書くことを確認し、意欲を高めるようにする。